# 今の世にこそ必要な聖人
## ～アシジの聖フランシスコ③～

先々週10月17日の巡礼の道は休刊になった。理由は5日前に発送した郵便が新聞社に届くのに5日間もかかったからである。郵便料金は値上がりし、隣の市まで配達が5日もかかるとは踏んだり蹴ったりだ。

さて、今シリーズで書いている「アシジの聖フランシスコ」は中世イタリアが生んだ最も著名な聖人である。

「裸のキリストに裸で従う」ことを求め、悛改と「神の国」を説いた聖人として有名だ。

現在の教皇は「フランシスコ」を名乗り、教皇の回勅（ラウダート・シ）の中で、聖フランシスコこそエコロジーの最高の模範と称えている。（回勅とはカトリック教会の公文書の一つで、教皇からカトリック教会の各司教に宛てた公文書のことである）

フランシスコ教皇は彼の著書ラウダート・シの中で次のように書いている。

「現在の世界情勢は不安定と危機感を我々に与え、それが集団的利己主義の温床になっている。人は自己中心的に、又自己完結的になる時貪欲さを募らせる。心が空虚であればある程、購買と所有と消費の対象を必要とする。現実から課される制限を受け入れることがほぼ不可能になる」

（以下省略）

ゆっくり味わいながら読むと指摘の通りだ。自分の生活にも当てはまる。

清貧と愛に生きた聖フランシスコ。彼の貧しさと簡素さは単なる禁欲生活ではない。これらを絶望的に思うのではなく、歓喜と賛美をもって生きたのだ。

最近の海外旅行の広告を見るとアシジが行程に入っているのは全くない。

残念ながら聖フランシスコの存在も薄れたことの表れだろう。私は広島教区創立50周年の記念事業として行った「聖地エルサレム巡礼とヨーロッパ祈りの旅」に途中とはいえ、アシジを訪れることが出来た。今も中世の雰囲気をそのまま伝える魅力的な所で、ここで聖フランシスコが活動したことを想像する時、自分も少しでも近づきたい気持ちになった。

今、我が家の応接間にアシジで買い求めた「サン・ダミアノの十字架」がかかっている。

この十字架はサン・ダミアノの古い礼拝堂で、この十字架を通して神がフランシスコに語り掛けられたといわれるものだ。これがフランシスコの生き方を根本から変え、神に「偉大な栄えある神よ、私を照らし、魂のやみを晴らして下さい」と祈ったという。

誰にも色々なかたちで神からの呼びかけがある。心静に祈ってその声を聴くことが出来るのだろう。

サン・ダミアノの十字架を通して神は私に何を問い掛けておられるのだろうと黙想する。

最後に聖フランシスコの平和の祈りを書く。

「主よ、わたしを平和の器とならせて下さい。

憎しみがあるところに愛を。争いがあるところに赦しを。分裂があるところに一致を。疑いがあるところに信仰を。誤りがあるところに真理を。絶望があるところに希望を。闇があるところに光をお与え下さい」

聖フランシスコは今の世に最も必要な聖人である。

ダミアノ聖堂の前に立つ妻

聖堂内の十字架